

# H29年建築1級学科試験問題 A

No1 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 換気量が一定の場合、室容積が大きいほど換気回数は少なくなる。
- 2 室内外の温度差による自然換気の場合、換気量は上下の開口部の高低差に比例する。
- 3 室内空気の一酸化炭素の濃度は、10 ppm 以下となるようにする。
- 4 室内空気の二酸化炭素の濃度は、1,000 ppm 以下となるようにする。

答え--- 2

室内外の温度差による換気量は、二つの開口部の高さの差の平方根に比例する。

No2 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 演色性とは、照明光による物体色の見え方についての光源の性質をいう。
- 2 グレアとは、高輝度な部分、極端な輝度対比や輝度分布などによって感じられるまぶしさをいう。
- 3 照度とは、受照面の単位面積当たりの入射光束をいい、単位はlx(ルクス)である。
- 4 全天空照度とは、天空光が遮蔽されることのない状況で、直射日光を含めた全天空によるある点の水平面照度をいう。

答え--- 4

全天空照度には直射日光を含まない。全天空照度は大気中の雲や塵で散乱されてから地表面にくる光(天空日射)のみが対象である。

No3 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 建物の床、梁、壁などを伝わる振動が最後に空気中に放射される音を固体音という。
- 2 人が知覚する主観的な音の大きさをラウドネスといい、音圧レベルが一定の場合、100 Hzの音よりも1,000 Hzの音の方が大きく感じる。
- 3 音波が障害物の背後に回り込む現象を回折といい、周波数が高くなるほど回折しやすい。
- 4 ある音が別の音によって聞き取りにくくなるマスキング効果は、両者の周波数が近いほどその影響が大きい。

答え--- 3

音波は、周波数が高くなるほど回折作用が弱くなる。

この過去問は受講者専用のページです。  
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。  
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>